



葛飾北斎「浮世画譜」より

平成24年度 山口県文書館古文書実践講座テキスト

# 山口町人安部氏の奥州旅日記

①

「あつまにき」

No.2















一 本石のわが御願のうけしゆく 丹後河内桑原のたわ  
 木川うらたしとねた 川上は橋は たわ木 丹波  
 川下は 津 津 津 津 津 津 津 津 津 津  
 るる大子此るゆり 川 川 川 川 川 川 川 川 川 川 川  
 此城より 川をさしてさうさうさうさうさうさうさうさう  
 とさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう  
 かた川 明なれ大故に なげとみらぬとらね  
 ゆささうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう  
 ひろるんく 川 川 川 川 川 川 川 川 川 川 川

一 たわさしほよこ 川 川 川 川 川 川 川 川 川 川 川  
 あつ 川 川 川 川 川 川 川 川 川 川 川 川 川 川 川 川 川 川  
 枝葉さうさうさうさう 川 川 川 川 川 川 川 川 川 川 川 川 川 川 川 川 川 川  
 たうらなうりれさ 川 川 川 川 川 川 川 川 川 川 川 川 川 川 川 川 川 川  
 八すい人の神也 川 川 川 川 川 川 川 川 川 川 川 川 川 川 川 川 川 川  
 一 此石のま 川 川 川 川 川 川 川 川 川 川 川 川 川 川 川 川 川 川  
 何を有殿の月柳す 川 川 川 川 川 川 川 川 川 川 川 川 川 川 川 川 川 川  
 ひとをい 川 川 川 川 川 川 川 川 川 川 川 川 川 川 川 川 川 川  
 む 川 川 川 川 川 川 川 川 川 川 川 川 川 川 川 川 川 川  
 あつ 川 川 川 川 川 川 川 川 川 川 川 川 川 川 川 川 川 川  
川 川 川 川 川 川 川 川 川 川 川 川 川 川 川 川 川 川











折返りのけしきに梅の花はあつて  
そのうらみはあつてとていふも  
すまじき事くして市川の橋に  
老いたらぬれくみゆ

其の老はぬれぬれとていふも  
いつの世をね目の浦をよ  
いひしれづる毎日のぬれぬれ  
新橋よりかへり相をたも  
はるばるあつて  
いひしれづる毎日のぬれぬれ  
又とていふも

おのれをたもぬれぬれとていふも  
いつの世をね目の浦をよ  
いひしれづる毎日のぬれぬれ  
新橋よりかへり相をたも  
はるばるあつて  
いひしれづる毎日のぬれぬれ  
又とていふも



一 一昨日より六甲方面から来たといふのであつた。又、  
一昨日より六甲方面から来たといふのであつた。又、  
一昨日より六甲方面から来たといふのであつた。又、  
一昨日より六甲方面から来たといふのであつた。又、  
一昨日より六甲方面から来たといふのであつた。又、  
一昨日より六甲方面から来たといふのであつた。又、  
一昨日より六甲方面から来たといふのであつた。又、  
一昨日より六甲方面から来たといふのであつた。又、  
一昨日より六甲方面から来たといふのであつた。又、  
一昨日より六甲方面から来たといふのであつた。又、

一 七日卯日連初林乃とてゆふ  
一 七日卯日連初林乃とてゆふ  
一 七日卯日連初林乃とてゆふ  
一 七日卯日連初林乃とてゆふ  
一 七日卯日連初林乃とてゆふ  
一 七日卯日連初林乃とてゆふ  
一 七日卯日連初林乃とてゆふ  
一 七日卯日連初林乃とてゆふ  
一 七日卯日連初林乃とてゆふ  
一 七日卯日連初林乃とてゆふ

一 七日卯日連初林乃とてゆふ  
一 七日卯日連初林乃とてゆふ  
一 七日卯日連初林乃とてゆふ  
一 七日卯日連初林乃とてゆふ  
一 七日卯日連初林乃とてゆふ  
一 七日卯日連初林乃とてゆふ  
一 七日卯日連初林乃とてゆふ  
一 七日卯日連初林乃とてゆふ  
一 七日卯日連初林乃とてゆふ  
一 七日卯日連初林乃とてゆふ







